

## はじめに

今日、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行しています。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しています。また、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている状況です。

このような中で、一人一人が「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学校生活に取り組みながら、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められています。

「キャリア教育」という用語が文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(平成11年12月)」においてでした。本答申では「学校教育と職業生活との接続」の改善を図るために、小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言されています。

その後、様々なキャリア教育推進施策が展開されましたが、平成18年におよそ60年ぶりに改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられました。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられたところです。

また、平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においても、新しい学習指導要領でのキャリア教育の充実が求められ、同年3月には本答申に基づいて中学校学習指導要領が改訂されました。

更に、平成20年7月1日には「教育振興基本計画」が閣議決定され、今後5年間(平成20～24年度)に取り組むべき施策の一つとして「関係府省の連携により、小学校段階からのキャリア教育を推進する」ことが挙げられ、中学校を中心とした職場体験活動の推進が中心の課題の一つとなっています。

これらを踏まえ、同年12月には、文部科学大臣が中央教育審議会に対して「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問し、この1月に答申がとりまとめられました。本答申では、体系的なキャリア教育において「中学校の段階は極めて重要である」と述べられています。文部科学省では、その重要性にかんがみ平成23年3月に『中学校キャリア教育の手引き』を発行しましたが、このたび広く市販する運びとなりました。本書が、各中学校はもとより、関心をお持ちの多くの方々に広く活用され、キャリア教育の指導内容・指導方法の充実に役立てられることを念願しております。

末尾となりましたが、本書の作成に当たり御尽力を賜りました作成協力者及び関係の皆様へ深くお礼申し上げます。

平成23年5月

文部科学省初等中等教育局長  
山中伸一

# CONTENTS

## はじめに

### 第1章

#### キャリア教育とは何か

<b>第1節 キャリア教育の必要性と意義</b>	<b>9</b>
1 キャリア教育が提唱された背景	9
(1)子どもたちをめぐる課題	
(2)キャリア教育の提唱と経緯	
2 キャリア教育の定義	14
(1)キャリアとは	
(2)キャリア発達とは	
(3)キャリア教育で育成すべき力	
－「基礎的・汎用的能力」とは－	
(4)今後のキャリア教育における勤労観・職業観の位置付け	
3 キャリア教育の目標	26
(1)中学校3年間を見通した目標設定	
(2)キャリア発達を踏まえた目標設定	
4 キャリア教育に期待されること	30
(1)「生きる力」の理念を実現する視点から	
(2)いわゆる「PISA型学力」の視点から	
(3)言語活動の充実という視点から	
5 キャリア教育の意義	31
<b>第2節 キャリア教育と進路指導</b>	<b>33</b>
1 進路指導の定義と諸活動	34
(1)進路指導の定義	
(2)進路指導の諸活動	
2 教育課程における進路指導の位置付け	36
3 キャリア教育と進路指導との関係	37
<b>第3節 小学校や高等学校におけるキャリア教育</b>	<b>39</b>
1 小学校におけるキャリア教育の特質	40
(1)小学校におけるキャリア教育の全体像	
(2)小学校・低学年における発達課題とキャリア教育	
(3)小学校・中学年における発達課題とキャリア教育	
(4)小学校・高学年における発達課題とキャリア教育	
2 高等学校におけるキャリア教育の特質	48
(1)高等学校におけるキャリア教育の全体像	
(2)高等学校における各教科・科目で進めるキャリア教育	
(3)高等学校における確かな成長を促すインターンシップの推進	

### 第2章

#### 中学校におけるキャリア教育の推進のために

<b>第1節 校内組織の整備</b>	<b>57</b>
1 キャリア教育の推進と校長の役割	57
2 校内推進体制の整備	58
(1)生徒に対する指導体制	
(2)実践を支える運営体制	
3 教職員研修	60
(1)教職員研修のねらいや内容	
(2)教職員研修の実施形態	
(3)記録の保存や活用	
<b>第2節 全体計画の作成</b>	<b>61</b>
1 全体計画の基本的な考え方	61
2 各学校において定めるキャリア教育の目標	61
(1)生活環境を考慮した目標設定の工夫	
(2)学校規模を考慮した目標設定の工夫	
(3)生徒指導上の問題を抱えている学校における目標設定の工夫	
3 育成したい能力や態度の設定	63
4 教育課程における位置付け	66
(1)各教科等との関連	
(2)進路指導との関連	
<b>第3節 年間指導計画の作成</b>	<b>69</b>
1 年間指導計画の基本的な考え方	69
(1)年間指導計画作成の手順	
(2)年間指導計画作成の留意点	
(3)年間指導計画作成の効果	
2 各教科と年間指導計画	70
(1)国語	
(2)社会	
(3)数学	
(4)理科	
(5)音楽	
(6)美術	
(7)保健体育	
(8)技術・家庭	
(9)外国語	
3 道徳と年間指導計画	75
(1)中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例	
(2)道徳の年間指導計画の具体例〈第2学年〉	
4 総合的な学習の時間と年間指導計画	77
(1)中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例	
(2)総合的な学習の時間の年間指導計画の具体例〈第2学年〉	
5 特別活動と年間指導計画	79
(1)中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例	
(2)特別活動の年間指導計画の具体例〈第2学年〉	
6 各教科等を横断的に見た年間指導計画(一覧)	81
7 進路指導と年間指導計画	83
(1)進学指導・就職指導とキャリア教育の関係	
(2)進学指導・就職指導の計画を組み込んだキャリア教育の具体例	

<b>第4節 連携の推進</b>	<b>85</b>
1 連携の基本的な考え方	85
2 家庭・保護者との連携	85
(1)家庭・保護者に期待される役割	
(2)連携の在り方	
3 地域・事業所等との連携	87
(1)地域・事業所等に期待される役割	
(2)産業界等に期待される役割	
(3)地域・事業所・産業界等との連携の方策と留意点	
(4)連携の効果	
4 学校間(異校種間)連携	92
(1)学校間連携の考え方	
(2)学校間連携の活動例	
(3)学校間連携の効果	
5 家庭・地域・事業所・産業界等と学校を結び付ける方策	94
(1)キャリア教育推進連絡協議会(仮称)の組織化と目標	
(2)キャリア教育推進連絡協議会(仮称)の活動内容の例	
<b>第5節 効果的な職場体験活動の在り方</b>	<b>96</b>
1 キャリア教育における職場体験の位置付け	96
2 職場体験充実のための方策	96
(1)職場体験の基本的な考え方	
(2)事前指導から事後指導への展開	
3 職場体験充実のための留意事項	103
(1)職場体験の実施時期	
(2)職場体験の実施期間	
(3)職場体験の体験先の決定	
(4)職場体験を実施するに当たっての健康管理や安全確保上の配慮	
(5)職場体験期間中の指導と配慮	
<b>第6節 キャリア教育の評価</b>	<b>107</b>
1 評価の基本的な考え方	107
2 生徒の成長や変容に関する評価	107
(1)評価の視点と方法	
(2)定性的な評価と定量的な評価	
3 教育活動の評価と改善	109
(1)評価の視点と方法	
(2)改善の視点と方法	
4 各学校の指導計画の評価と改善	110
(1)評価の視点と方法	
(2)改善の視点と方法	

## 第3章

### 中学校におけるキャリア教育の実践

<b>第1節 中学校におけるキャリア発達</b>	<b>115</b>
1 各学年におけるキャリア発達のとらえ方	115
2 各学校におけるキャリア発達課題の具体的なとらえ方	116
<b>第2節 各学年におけるキャリア発達課題</b>	<b>119</b>
1 第1学年の発達課題と取組の基本的な考え方	120
2 第2学年の発達課題と取組の基本的な考え方	122
3 第3学年の発達課題と取組の基本的な考え方	124
<b>第3節 3年間を見通した系統的なキャリア教育の取組</b>	<b>126</b>
1 個に応じた指導・支援とキャリアカウンセリング	127
(1)キャリアガイダンスとキャリアカウンセリング	
(2)学校におけるキャリアカウンセリングの活動	
(3)各学年の課題と個に応じた指導・支援とキャリアカウンセリング	
2 体験的な学びを生かした取組	129
3 各教科における学びを断片化させない工夫	131
4 地域とともにつくる系統的なプログラム	132
〈事例1〉 地域の人材との連携による勤労体験学習	
〈事例2〉 小・中連携を生かし、学びのつながりを意識したキャリア教育	
〈事例3〉 地域とともにおすすめのキャリア教育の取組	
<b>第4節 各教科等における取組</b>	<b>141</b>
1 日々の教育活動とキャリア教育	141
2 本節の構成と活用方法	141
国語	142
社会	146
数学	150
理科	154
音楽	158
美術	162
保健体育	166
技術・家庭	170
外国語	176
道徳	180
総合的な学習の時間	184
特別活動	188

## FAQ

FAQ

193

第1章

第2章

第3章

FAQ

